

多谷昇太

「月になつたパラボラ」

団地の屋上にかかるパラボラが  
夕日を受けて輝き出した  
地平に沈むお日様の  
最後の一条の光 委託を受けて  
パラボラはもつと輝いた

やがて日が沈み夕闇が増すと  
月のようにパラボラも、上へと…  
え…？

ああ、お月様だったんだね！

「月は香具弥に」

中空から雅楽が聞こえて来そうな  
今月今夜、中秋の名月。

団子を置いてススキも飾り、さて…

しかし月は雲間に隠れて出て来ません。

雲を裏から照らしているばかり。

ついに今夜はお出ましになりませんか？

年にたった一度の儀式、習わしだなんて、

そんな薄情で勝手な人都合、

お月様はきつとすねておいでになるのでしょうか。

前なる雲は几帳か藪、

それでもお月様は、その間から少しだけ、お顔を出

して見せます。都度の下界の大騒ぎ、喜びよう。

日頃の、夜離れ、のうっふんを、

月は晴らしているのでしょうか。

さても人焦がれたり、この時に、

雲を飛ばし藪をはねて、くまなく見せるその姿。

これぞ満願成就、円満具足。われら皆道長となつて

これを愛で、褒めそやします。

誰ぞまず「雲立てて見せみ見せずみ局なす月は香具  
弥に愛嬌つきたり」などと歌詠めば、  
空なる月も嬉しそう…。

← (科学的詩境へと)

地球は夫、月は妻。

永久に変わらぬ夫婦と見るならば、  
地球が核で、それを廻る電子を月と見るならば、  
地球と月は二つで一つ、

いずれ欠けても存えません。

古人(いにしえびと)の心直ぐなれば、

さほどの強き縁をば知らず感じていたのでしょう。

中天かかる我妹子と、

夫(つま)恋うみずからの写し絵と、

夜ごとに愛でざるといふことはなかつたでしょう。

時過ぎて、人の心はすさびはて、

万生を生かす天のはからい、ことわりを、

思うことなどもうしない。月さえ地球の衛星、

ただの物体と、冷たい心で見ればかり。

一糸乱れぬ天体の動き、

いわんや寄りそうこの月に、  
生かされていることを忘れていいですか…？

妻を想わぬ夫のあるものか、  
夫を慕わぬ妻のあるものか、  
天なる香具弥をそのままに、  
ひとり放っておいては、かわいそう…。



月の涙 (photo AC より借用)

「ねぬなわの…」

、ねぬなわの苦しや永き寝ぬわざの

根をば断ちなむ身儼底もぐる、

末世ともなれば、

鬼も最低、ちんけになりまして、

たとえばグアンタナモ収容所のように、

虜囚を、人を眠らせません。

またたとえば私のように、

ヤクザのストーカーなどもなどに憑りつかれまして、

16年間も睡眠妨害を被ったりもするのです。

だから、そりゃもうあなた、

ただ、ただ、眠くって辛くって…

困窮のあまり、とうとうガンになぞなったりして、

死の影におびえながら、

9時間におよぶ大手術を受けました。

いま私は手術後のICUの部屋にいる。

ひどい熱さと寒さが交互に襲って来て、

大汗をかいたり、悪寒でガタガタふるえたりして、

また何より痛くって痛くって、

いま死ぬ…と、本当にそう思いました。

(男でも泣いたりして?)

しかしそれでも離れ得ぬこの身体を、

因果と思ったりもするのです。

そんな折り衝立を隔てた隣りのベッドから、

二人の婦人の話し声が聞こえて来ました。

「ううん、そうじゃないの。あの人(たぶん私)は

…」「そうそうそう、だから私は云ったのよ…」

取り止めのない会話が際限なく続きます。

しかしちよつと待てよ、ここは面会謝絶の、

手術直後のICU処置室のはず。

ではいったい…?

わかりました。一人二役。

私同様手術を終えたご婦人が、分裂気味に一人二役

を演じていたのです。

知ってました?

死の恐怖や、堪えられない苦しみを受けたりとすると、

人はときにおかしくなるって。

かわいそうに…私は自分の苦しみを一瞬忘れて、

婦人に同上しました。

するとなぜか身体が少し楽になって、

そのままスーッと、甘美な甘美な、

久しき安眠の中に落ちて行き、そ、う、に…

ガタン！ ん…？

眠りそうになるとその都度、

誰かが何かを叩いて私を起こします。

はてまたヤクザ？ ちんけ鬼？

いいえ違いました。隣りのご婦人でした。

おそらく霊視ができるのでしよう。

私が幽体離脱（＝眠り）をしかけると、

何かでベッドのフレームを叩いて起こしていたの

です。もちろん婦人など知らぬ人、

私の経緯など知る由もない。ではなぜ…？

ああ、鬼め！ こんなことを、こんな時にまで！

知ってました？

鬼や悪霊たち（死霊も生霊も）が、

時空や人の身体の別を越えるってことを。

超常的だっってことを。

憑りつかれた者が全面降伏するまで、

彼らは決して攻撃を緩めません。死ぬ時でさえ、

責め苦を与え続けます。また人の数を厭いません。

それを称して何と云いましょるか。

イジメ？ 村八部？ ブログ炎上？

私で云えばチンピラストーカーどもに実に16年間

（ということはほぼ一生）、憑りつかれたままです。

そこで私は、

いつそ自分も超常的になろうと思うのです。

ストーカーからいくら逃げても逃げて、

世間のイジメを厭うても、逃れ、避けられません。

でも自分の心を変えるなら、

きつと、彼らから離れられるでしょう。

ですから自分の業に深く深く潜り、その根をば、

断ち切ります！

最後にもう一度言挙げ歌を詠みましょう。

ねぬなわの苦しや永き寝ぬわざの

根をば断ちなむ身髄底もぐる、